

AIDEM 天職に関するアンケート調査

平成 20 年 2 月 20 日発表

現在の仕事を天職だと言えるか

～「天職だと言える」が 22.9%と 2 割強～

- あなたにとって仕事とは何か
～「生計を支えるもの」が 93.4%～
- 仕事が自分に合っているか
～「合っている」が 74.3%～
- 仕事にやりがいを感じるか
～「やりがいを感じる」が 68.9%～
- 仕事が好きか
～「好き」が 65.2%～
- 周りに天職に就いていると思える人はいるか
～「いる」が 57.1%と 6 割弱～
- 天職と聞いてどのような言葉を思い浮かべるか
～「能力発揮」が最も多く 60.0%と 6 割～
- どのような仕事が天職だと思うか
～「自分の才能を活かせる仕事」が最も多く 60.3%と 6 割～
- 天職についてどのように考えるか
～「天職は誰にでもあるが、必ずしも出会えるものではない」が 73.9%～

調査の概要

- 調査目的** : 天職という言葉をよく耳にするが、一体自分が“天職”に就いていると思っている人はどれくらいいるのだろうか。辞書では「その人の天性に最も合った職業（岩波書店「広辞苑」より）」と定義されているが、実際個々の天職の定義は人それぞれで異なっていると思われる。そこで正社員で働く人々にアンケートを実施し、その天職観を探った。
- 調査実施期間** : 平成19年12月13日～平成19年12月20日
- 調査対象** : gooリサーチ消費者モニター
調査時点で正社員・正職員として働いている20代～50代男女
- 調査方法** : gooリサーチを利用したWebアンケート調査
- 有効回答数** : 1,092

回答者内訳

年代	男性	女性	合計
20代	138	137	275
30代	135	136	271
40代	140	139	279
50代	138	129	267
合計	551	541	1,092

お問い合わせ先 : 株式会社 アイデム 人と仕事研究所 担当: 小杉雅和
電話 03-5269-6020 FAX 03-5269-6046 <http://apj.aidem.co.jp/>

株式会社 アイデム

- 本社 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10
- 代表 代表取締役 栴山 亮
- 設立 昭和46年2月
- 年商 645億8,400万円（平成19年8月決算実績）
- 従業員数 約2,000名
- 事業内容
- 1 新聞折込求人紙『しごと情報アイデム』の企画・発行
総発行部数：週 5,000万部
配布エリア：北海道4、東北3、関東189、東海36、近畿116、山陽17、九州15
計380エリア
 - 2 設置型フリーペーパー 「しごと」情報誌『ジョブアイデム』の企画・発行
 - 3 新卒・転職者に向けた合同企業説明会『アイデム職選広場』の開催
 - 4 インターネット求人情報サイト『e-aidem』の運営
 - 5 教育セミナーの運営、オリジナル賃金等の調査、『パートタイマー白書』、情報誌『人とマネジメントWeb情報誌「現場イズム」』、『Re.Term』の発行等の各種情報サービスの提供

1 あなたにとって仕事とは何か

～「生計を支えるもの」が93.4%～

問 あなたにとって仕事とは何ですか。あてはまるものを3つまでお選びください。

現在正社員や正職員として働いている人々に、あなたにとって仕事とは何かを聞いたところ、「生計を支えるもの」が他を大きく引き離して93.4%と最も多く、次いで「社会や人とのつながり」43.5%、「社会人としての義務」33.2%、「社会に対する貢献」と「生きがい」が並んで14.4%、「自己実現」12.2%、「自己研鑽」12.1%の順となりました。

これを性別でみると、「社会に対する貢献」「社会人としての義務」と回答した割合は男性の方が女性より高く、「社会や人とのつながり」「自己研鑽」と回答した割合は女性の方が男性より高くなっているのが特徴的です。

図1 あなたにとって仕事とは何か(3つまで選択)

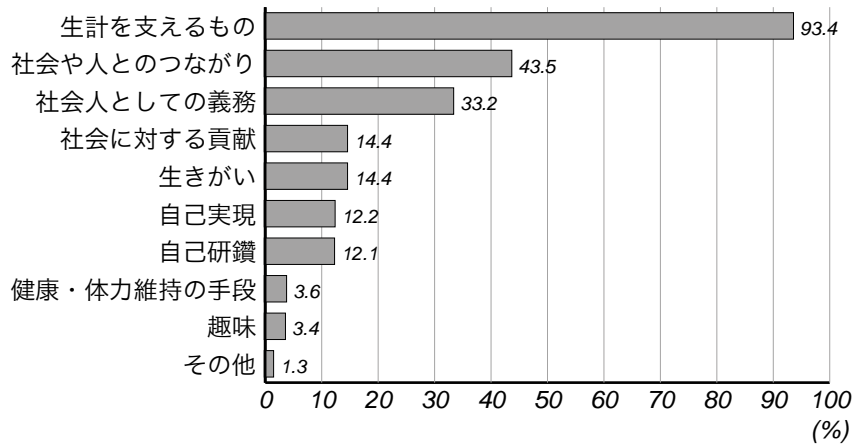


表1 あなたにとって仕事とは何か(3つまで選択)

		生計を支えるもの	社会や人とのつながり	社会人としての義務	社会に対する貢献	生きがい	自己実現	自己研鑽	健康・体力維持の手段	趣味	その他
計		93.4	43.5	33.2	14.4	14.4	12.2	12.1	3.6	3.4	1.3
年代	20代	91.3	38.9	35.3	14.2	16.0	15.3	12.7	2.9	5.1	0.7
	30代	94.5	44.6	36.9	12.5	12.2	8.9	12.9	4.4	3.3	1.1
	40代	95.0	44.4	29.4	12.2	10.0	11.8	11.5	2.2	2.5	2.2
	50代	92.9	46.1	31.1	18.7	19.5	12.7	11.2	4.9	2.6	1.1
性別	男性	94.6	36.3	35.9	19.4	13.2	11.4	9.4	2.9	3.4	0.7
	女性	92.2	50.8	30.3	9.2	15.5	12.9	14.8	4.3	3.3	1.8

(%)

2 仕事が自分に合っているか

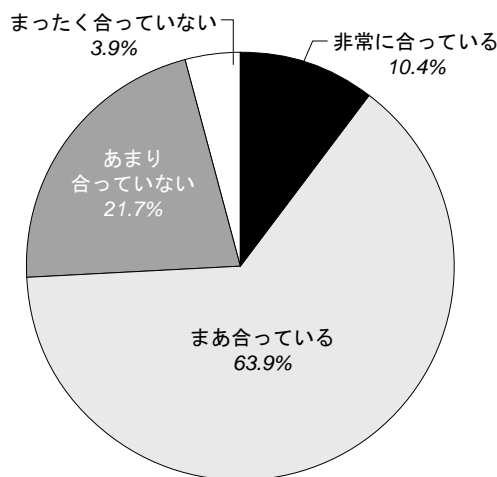
～「合っている」が74.3%～

問 あなたは現在の仕事が自分に合っていると思いますか。

現在の仕事が自分に合っていると思うかと聞いたところ、「非常に合っている」10.4%、「まあ合っている」63.9%、「あまり合っていない」21.7%、「まったく合っていない」3.9%という結果になりました。

「非常に合っている」と「まあ合っている」を合わせると、74.3%と7割以上の方が現在の仕事が自分に合っていると回答しています。

図2 仕事が自分に合っているか



3 仕事にやりがいを感じるか

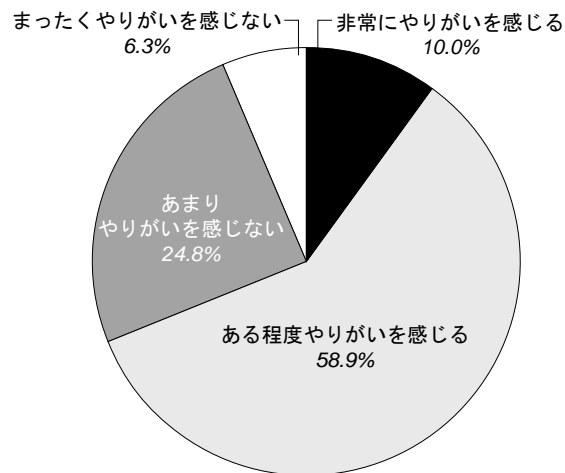
～「やりがいを感じる」が68.9%～

問 あなたは現在の仕事にやりがいを感じますか。

現在の仕事にやりがいを感じるかと聞いたところ、「非常にやりがいを感じる」10.0%、「ある程度やりがいを感じる」58.9%、「あまりやりがいを感じない」24.8%、「まったくやりがいを感じない」6.3%という結果になりました。

「非常にやりがいを感じる」と「ある程度やりがいを感じる」を合わせると、68.9%と7割弱の方が現在の仕事にやりがいを感じると回答しています。

図3 仕事にやりがいを感じるか



4 仕事が好きか

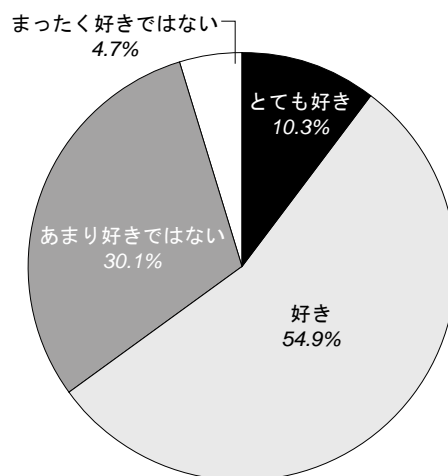
～「好き」が65.2%～

問 あなたは現在の仕事が好きですか。

現在の仕事が好きかと聞いたところ、「とても好き」10.3%、「好き」54.9%、「あまり好きではない」30.1%、「まったく好きではない」4.7%という結果になりました。

「とても好き」と「好き」を合わせると、65.2%と6割以上の方が現在の仕事が好きと回答しています。

図4 仕事が好きか



5 現在の仕事を天職だと言えるか

～「天職だと言える」が22.9%と2割強～

問 あなたは現在の仕事を“天職”だと言えますか。

現在の仕事を天職だと言えるかと聞いたところ、「天職だと言える」が22.9%で2割強、「天職だとは言えない」が77.1%で8割弱という結果になりました。前問では「仕事が自分に合っている」が74.3%、「仕事にやりがいを感じる」が68.9%、「仕事が好き」が65.2%との回答が7割前後でしたが、「天職だと言える」との回答は全体の4分の1弱にとどまりました。

これを「仕事にやりがいを感じるか」との関係でみると、「非常にやりがいを感じる」と回答した人の74.3%が「天職だと言える」と回答し、「ある程度やりがいを感じる」と回答した人の「天職だと言える」割合24.9%を大きく上回ります。なお、図表は掲載していませんが、「仕事が合っているか」「仕事が好きか」との関係でも同様の傾向になっており、“非常に合っている”“非常にやりがいを感じる”“とても好き”と仕事を捉えている人ほど、現在の仕事を天職だと感じているようです。

また、問1の「あなたにとって仕事とは何か」を「現在の仕事を天職だと言えるか」との関係で見ると、「社会に対する貢献」「生きがい」「自己実現」「自己研鑽」と回答した割合は、「天職だと言える」と回答した人の方が高くなっています。一方、「生計を支えるもの」と回答した割合は「天職だとは言えない」と回答した人の方が高くなっており、仕事の捉え方に大きな差異が出ています。

図5-1 現在の仕事を天職だと言えるか

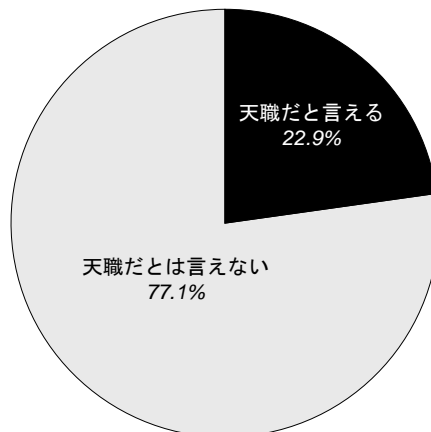


図5-2 「仕事にやりがいを感じるか」との関係

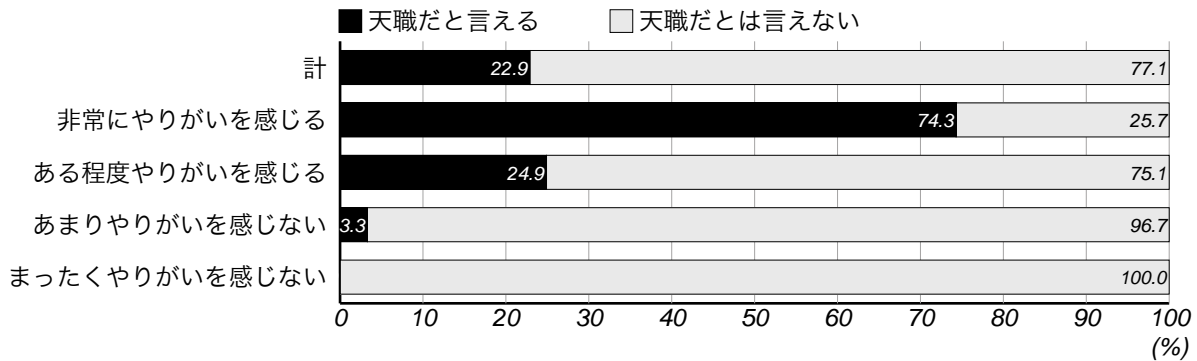


表5 「あなたにとって仕事とは何か」との関係

	生計を支えるもの	社会や人とのつながり	社会人としての義務	社会に対する貢献	生きがい	自己実現	自己研鑽	健康・体力維持の手段	趣味	その他
計	93.4	43.5	33.2	14.4	14.4	12.2	12.1	3.6	3.4	1.3
天職だと言える	87.2	42.4	31.6	23.6	24.8	20.4	16.0	2.4	6.4	1.2
天職だとは言えない	95.2	43.8	33.6	11.6	11.3	9.7	10.9	3.9	2.5	1.3

(%)

⑥ 周りに天職に就いていると思える人はいるか

～「いる」が57.1%と6割弱～

問 あなたの周りに“天職”に就いていると思える人はいますか。

周りに天職に就いていると思える人がいるかと聞いたところ、「いる」が57.1%で6割弱、「いない」が42.9%で4割強という結果になりました。前問の現在の仕事を「天職だと言える」と回答した22.9%よりも、周りに「いる」との回答の方が多くなっています。結果からは、自分自身が天職に就いていると認識していなくても、他人からみると天職に就いていると映っている人も多いようです。

また、これを「現在の仕事を天職だと言えるか」との関係でみると、「天職だと言える」と回答した人では、周りに「いる」との回答が84.8%と8割を超える結果になりました。

図6-1 周りに天職に就いていると思える人はいるか

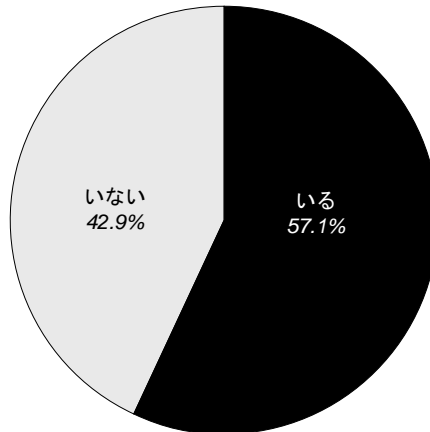
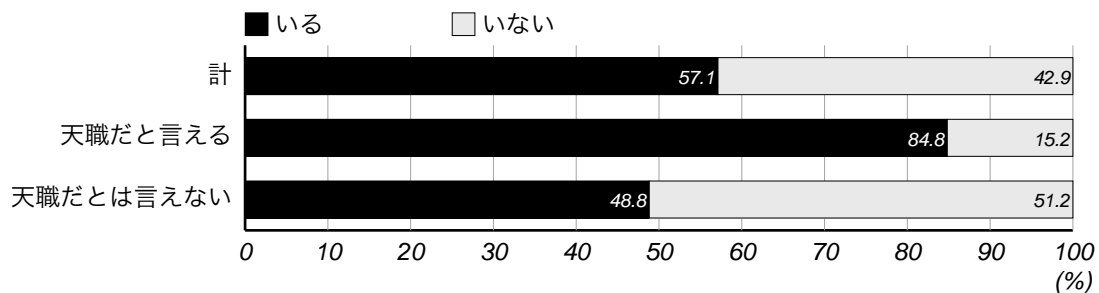


図6-2 「現在の仕事を天職だと言えるか」との関係



7 天職と聞いてどのような言葉を思い浮かべるか

～「能力発揮」が最も多く60.0%と6割～

問 あなたは「天職」と聞いてどのような言葉を思い浮かべますか。あてはまるものを5つまでお選びください。

天職と聞いてどのような言葉を思い浮かべるかと聞いたところ、「能力発揮」が60.0%と最も多く6割に達しています。次いで「生きがい」49.2%、「充実感」45.6%、「やりがい」41.6%、「自己実現」35.8%、「誇り」30.6%、「プロフェッショナル」27.0%、「夢」26.7%、「才能」25.5%の順となりました。

これを年代や性別で数値に大きな開きがある項目をみると、「夢」と回答した割合は年代が高くなるほど低くなり、20代で33.8%が50代では19.5%と14.3ポイントの差、逆に「才能」と回答した割合は年代が高くなるほど高くなり、20代で21.5%が50代では30.3%と8.8ポイントの差が生じています。また、「夢」と回答した割合は男性の方が女性より高く、「能力発揮」「充実感」「才能」と回答した割合は女性の方が男性より高くなっているのが特徴的です。

さらにこれを「現在の仕事を天職だと言えるか」との関係で数値に大きな開きがある項目をしてみると、「能力発揮」「やりがい」「楽しさ」「収入」は「天職だと言える」と回答した人の割合が高く、「充実感」「才能」は「天職だとは言えない」と回答した人の割合が高い結果となりました。

図7 天職と聞いてどのような言葉を思い浮かべるか(5つまで選択)

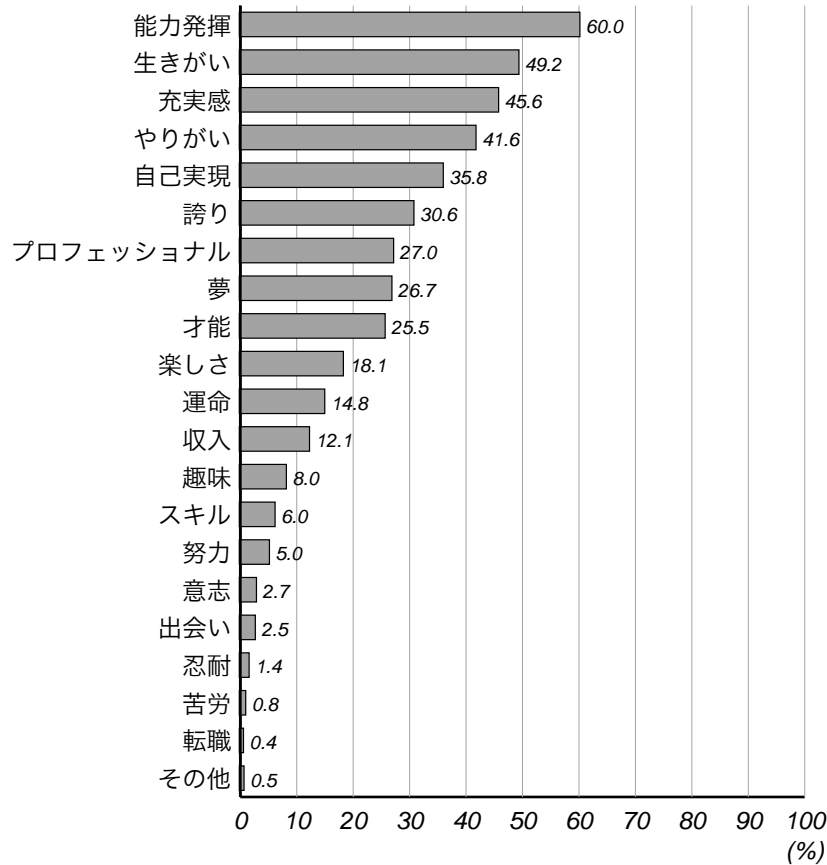


表7 天職と聞いてどのような言葉を思い浮かべるか(5つまで選択)

		能力発揮	生きがい	充実感	やりがい	自己実現	誇り	プロフェッショナル	夢	才能	楽しさ	運命	収入	趣味	スキル	努力	意志	出会い	忍耐	苦勞	転職	その他
計		60.0	49.2	45.6	41.6	35.8	30.6	27.0	26.7	25.5	18.1	14.8	12.1	8.0	6.0	5.0	2.7	2.5	1.4	0.8	0.4	0.5
年代	20代	61.5	48.7	46.2	42.5	37.5	27.6	27.3	33.8	21.5	20.0	12.7	16.4	10.9	7.6	5.1	3.6	3.6	1.5	-	0.4	0.4
	30代	58.7	48.7	45.0	43.5	34.7	32.8	28.4	29.5	23.2	18.8	13.7	12.2	12.2	4.4	5.2	3.3	1.1	0.7	1.5	1.1	0.4
	40代	58.4	43.4	47.7	43.0	35.1	30.8	26.9	24.0	26.9	18.6	15.1	8.2	6.1	5.4	3.6	1.4	2.5	0.4	0.4	-	0.4
	50代	61.4	56.2	43.4	37.1	36.0	31.1	25.5	19.5	30.3	15.0	18.0	11.6	2.6	6.4	6.4	2.6	2.6	3.0	1.5	-	1.1
性別	男性	53.7	51.0	41.0	39.6	34.3	29.9	27.2	29.9	22.3	17.8	13.2	13.8	9.3	4.9	4.7	1.8	2.7	1.6	1.1	0.5	0.9
	女性	66.4	47.3	50.3	43.6	37.3	31.2	26.8	23.5	28.7	18.5	16.5	10.4	6.7	7.0	5.4	3.7	2.2	1.1	0.6	0.2	0.2
天職だと言えるか	言える	63.6	48.4	42.4	48.8	35.6	30.8	26.8	25.2	20.8	22.0	15.2	16.8	8.0	6.4	4.4	3.6	2.8	2.0	0.8	-	0.4
	言えない	58.9	49.4	46.6	39.4	35.9	30.5	27.1	27.2	26.8	17.0	14.7	10.7	8.0	5.8	5.2	2.5	2.4	1.2	0.8	0.5	0.6

(%)

8 どのような仕事为天職だと思うか

～「自分の才能を活かせる仕事」が最も多く60.3%と6割～

問 あなたはどのような仕事为天職だと思いますか。あなたの考えに近いものを3つまでお選びください。

どのような仕事为天職だと思うかと聞いたところ、「自分の才能を活かせる仕事」が他を引き離して60.3%と最も多く6割、次いで「非常にやりがいを感じる仕事」39.1%、「充実感を覚える仕事」37.1%、「『一生の仕事である』と思える仕事」24.8%、「天職だと自分自身で思える仕事」24.4%、「プライドを持ってできる仕事」22.2%の順となりました。

これを年代や性別で数値に大きな開きがある項目をみると、「非常にやりがいを感じる仕事」と「天職だと自分自身で思える仕事」と回答した割合は年代が高くなるほど低くなり、前者は20代で44.4%が50代では31.5%と12.9ポイントの差、後者は20代で29.1%が50代では18.7%と10.4ポイントの差がそれぞれ生じています。逆に「自分の意志や信念を貫き通せる仕事」と回答した割合は年代が高くなるほど高くなり、20代で10.5%が50代では19.1%と8.6ポイントの差が生じています。また、「自分の夢が描ける仕事」と回答した割合は男性の方が女性より高く、「自分の才能を活かせる仕事」「充実感を覚える仕事」と回答した割合は女性の方が男性より高くなっているのが特徴的です。

さらにこれを「現在の仕事を天職だと言えるか」との関係で数値に大きな開きがある項目を見てみると、「非常にやりがいを感じる仕事」「充実感を覚える仕事」「プライドを持ってできる仕事」は「天職だと言える」と回答した人の割合が高く、「何にもまして好きな仕事」「自分の夢が描ける仕事」は「天職だとは言えない」と回答した人の割合が高い結果となりました。

図8 どのような仕事为天職だと思うか(3つまで選択)

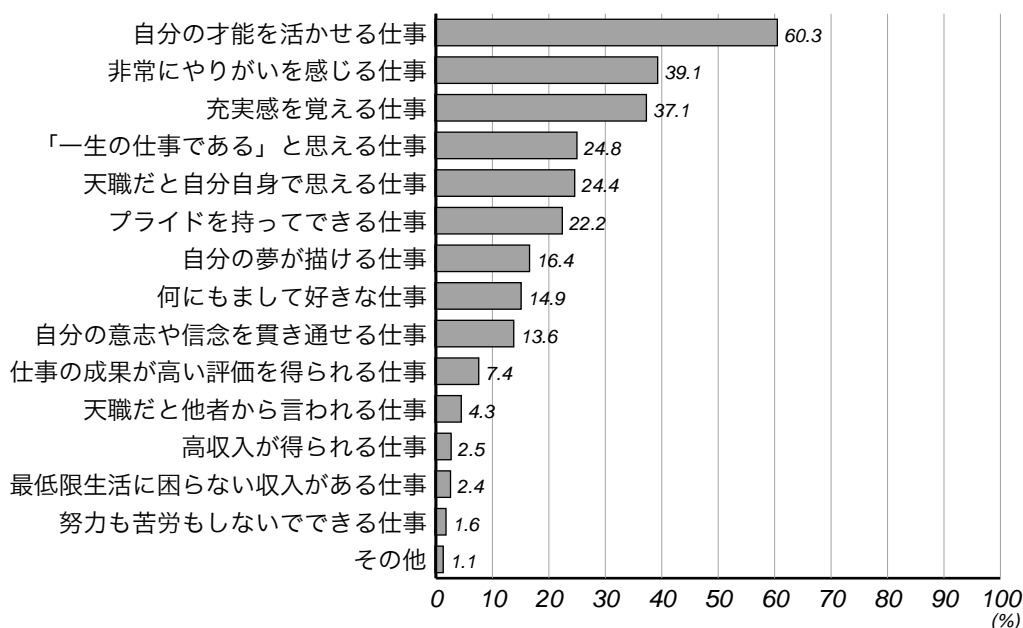


表8 どのような仕事が天職だと思うか(3つまで選択)

		自分の才能を活かせる仕事	非常にやりがいを感じる仕事	充実感を覚える仕事	「一生の仕事である」と思える仕事	天職だと自分自身で思える仕事	プライドを持つてできる仕事	自分の夢が描ける仕事	何にもまして好きな仕事	自分の意志や信念を貫き通せる仕事	仕事の成果が高い評価を得られる仕事	天職だと他者から言われる仕事	高収入が得られる仕事	最低限生活に困らない収入がある仕事	努力も苦勞もしないでできる仕事	その他
計		60.3	39.1	37.1	24.8	24.4	22.2	16.4	14.9	13.6	7.4	4.3	2.5	2.4	1.6	1.1
年代	20代	61.1	44.4	36.7	22.5	29.1	20.7	17.5	12.0	10.5	6.2	6.2	2.9	2.5	1.5	2.2
	30代	57.2	44.6	38.7	25.8	28.0	22.1	16.6	14.0	11.1	6.3	2.2	2.6	2.2	1.1	1.5
	40代	60.6	35.8	37.3	24.7	21.5	20.4	15.1	17.9	13.6	8.6	5.0	2.9	2.2	2.5	0.4
	50代	62.2	31.5	35.6	26.2	18.7	25.5	16.5	15.7	19.1	8.6	3.7	1.5	2.6	1.5	0.4
性別	男性	57.4	39.4	33.0	24.9	22.3	22.0	20.7	14.0	13.8	7.3	4.4	2.0	3.4	1.5	1.3
	女性	63.2	38.8	41.2	24.8	26.4	22.4	12.0	15.9	13.3	7.6	4.3	3.0	1.3	1.8	0.9
天職だと言えるか	言える	62.0	42.8	42.4	24.4	22.8	26.4	13.2	11.2	15.2	6.0	1.6	1.6	3.6	0.4	2.0
	言えない	59.7	38.0	35.5	24.9	24.8	20.9	17.3	16.0	13.1	7.8	5.1	2.7	2.0	2.0	0.8

(%)

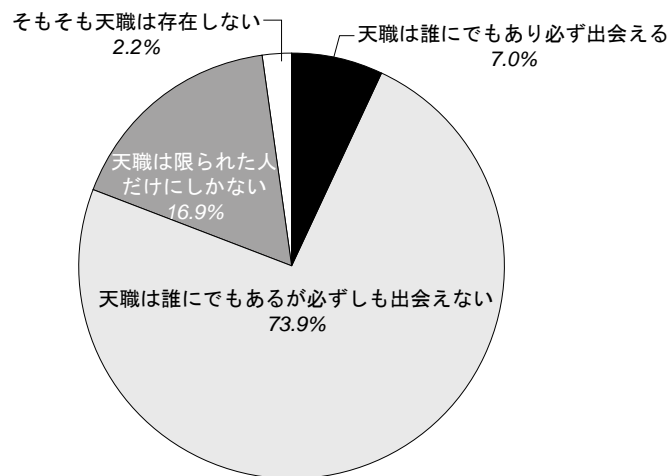
9 天職についてどのように考えるか

～「天職は誰にでもあるが、必ずしも出会えるものではない」が73.9%～

問 あなたは“天職”についてどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものをお選びください。

天職についてどのように考えるかと聞いたところ、「天職は誰にでもあり、必ず出会えるものである」7.0%、「天職は誰にでもあるが、必ずしも出会えるものではない」73.9%、「天職は限られた人だけにしかない」16.9%、「そもそも天職は存在しない」2.2%という結果になりました。

図9 天職についてどのように考えるか



【調査結果から】

今回のアンケート調査は、天職についての考えを探ろうという試みでした。「天職」を辞書で引くと「その人の天性に最も合った職業（岩波書店「広辞苑」より）」と定義されており、「最も」とあることから一つの職業を指しているようです。一方、「適職」は「その人に適した職（岩波書店「広辞苑」より）」のことで、必ずしも一つとは限りません。「天職」も「適職」もその定義は本人の主観的な考えで判断するものであると考え、今回は敢えて、「天職」の定義を明記せずにアンケートを実施しました。

調査結果からは、「天職は誰にでもある」と考えている人が80.9%と8割ですが、現在の仕事が「天職だと言える」と回答した人は22.9%と2割強という結果です。現在の仕事が「自分に合っている」74.3%、現在の仕事に「やりがいを感じる」68.9%、現在の仕事が「好き」65.2%と、7割前後の人が今の仕事を適職と感じているようですが、“非常に合っている”“非常にやりがいを感じる”“とても好き”と仕事を捉えている人ほど「天職だと言える」と回答した人の割合は高くなっており、単に“合っている”“やりがいを感じる”“好き”だけでは天職と感じられない人が多くなっています。また、「天職と聞いてどのような言葉を思い浮かべるか」を聞いた結果では「能力発揮（60.0%）」が、次の「生きがい（49.2%）」を10ポイント以上引き離して最も多く、「どのような仕事が天職だと思うか」と聞いた結果では「自分の才能を活かせる仕事（60.3%）」が、次の「非常にやりがいを感じる仕事（39.1%）」を20ポイント以上引き離して最も多くなったことから、“自分の能力や才能が発揮できること”が、その仕事を天職だと思えるか思えないかのひとつのバロメーターのように思われます。

また、今回の調査では「あなたはどのようにして“天職”に出会いましたか。あるいは、どのようにしたら“天職”に出会うことができると思いますか。」と自由回答で聞いていますが、そこからは「自己分析」「努力」「向上心」「チャレンジ」「社会経験」「職業教育」などのキーワードが浮かび上がってきました。自分が求める天職に一步でも近づくためには、自己の資質を充分に見つめ、模索すること、目の前にある仕事に自分の課題を持って真剣に向き合い努力すること、いろいろな可能性やチャンスを見逃さないようアンテナを広げ、チャレンジしていくことが必要ようです。

【参考】天職に関する自由意見

問 あなたはどのようにして“天職”に出会いましたか。あるいは、どのようにしたら“天職”に出会うことができると思いますか。“天職”に関するご意見を是非お聞かせください。

■ 「天職だと言える」と回答した人

- 天職に出会うためには苦手なことから逃げないで、「地道に努力することと、好きだと思うことに出会うためにいろいろな経験を試みる」とが大事なのではないだろうか。そして、弱気な自分をサポートしてくれる教育機関の重要性を感じる。（50代女性）
- 自分のやりたいことを探して転職し、天職に出会えました。天職に出会うのは運でもあり、実力でもあると思います。ただ、求め続けなければ何事も得ることはできません。（20代男性）

- 本当に自分がやりたいことを心に留めておくことが必要だと思う。私は学生時代にやりたい仕事を決めていたが、当時の常識(男女差)、病気等で諦めざるを得なかった。しかし、40歳目前にしてその仕事に出会うことができた。心から消し去ることなく思い続けていれば、相応しい時期に「天職」に巡り会えると思う。(40代女性)
- 自分の資質を見抜けるかどうかは鍵になるだろう。自分がどのような性格、素質なのかを理解することが、天職に出会えるかどうかの分かれ目となりそうだ。(20代男性)
- 常に好奇心のアンテナを広げて、自分の可能性を模索していなければ「天職」には出会えないと思います。仕事を愛し、それに関わる人々を愛し、自分が楽しんで仕事をする。そんなのが天職だと思う。(40代男性)
- 3つの仕事を転職し、それぞれでいろいろな経験を積み、今の仕事ではその技術と趣味が生かされています。学校を出てすぐに希望の職場に入ることができましたが、何もできず、そこで10年修行して、やっと1人前になり、次の職場で違うやり方を学びました。その後自分の仕事での得意分野がだんだんわかってきました。天職というのは人それぞれの考え方で違うと思いますが、私はある程度年を重ねてから、「ああ、これが私の天職だったんだ」と、気づくのだと思います。(40代女性)
- 学校を卒業して現会社に入社し、与えられた職場に配属され、それなりに成果を出していた(私の時代は会社に入れば良いと言う時代)。ある時、自由参加の学習会(情報システムのプログラム)があり、参加して“こんなに面白い職業があったのか”とビックリ。その直後に配転命令が出て情報システムの所属になった。それからは面白くてあつという間に10年。プログラマーからSEとなり、それなりの評価も得て、仕事の量に関係なく充実した毎日です。何時、何処で自分を生かすものに出会えるかは判らないが、チャンスはあるので色々な事にチャレンジして見つける事だと思います。(50代女性)

■「天職だとは言えない」と回答した人

- 出会うためには始めに自分を知ることが何よりも必要であると考え。自分がどのような特性があり、その上でどのような適性があるのかを知ること。そのためには今までの自分を振り返ることとともに、実際に職をこなしていくことが必要で、それは良しにつけ悪しきにつけ、指標となり自分を知るための基準となってくれる。その基準に基づき、己の「天職」に近づいていくことが出会うための数少ないプロセスであると考え。(20代男性)
- 天職に出会う、と言うよりはいつの間にか天職になってしまう、と言うほうが近いかもしれないです。視点としては「その仕事が社会的に意義のある仕事か」「顧客本位の考え方ができるか」「自分に対して正当な評価が得られるか」という3つがあり、そのどれもが満たされていることが条件だと思います。仕事が好きくて、時間もいとわず、家族にも話せ、家族も理解し、誇りを持って人に語れるような内容のもの。収入が優先ではなく、社会や顧客に役に立つことが優先で、その結果収入もついてくるような形が望ましいと思います。年齢に関係なく、絶えず能動的に仕事に取り組める仕事こそ、振り返ったときに「天職」だったと思えるのかも知れませんね。(50代男性)
- 天職とは意識して出会えるものではなく、運とかチャンス等によって出会えるものと思っています。努力ももちろん大切ですが、努力だけでは出会えないもの。人と人との繋がりの中から出会えることも少なくないと思います。また、仕事をしているうちにこれが天職と思えることもある。要ははつらつとした自分を発揮できることが大切だと思います。(50代女性)

- 天職はチャレンジした上で成功することによって出会うものだと思う。「とりあえず就職する」とか「何でもいいから仕事を」ではなく、自分のやりたいこと、目指すものに対してチャレンジし成功したときにそれが天職になるのだと思う。自分の夢でも成功できないのは「天職」とは言えない。「成功」とは経済面ばかりではないが、「職」であるかぎり最低限自分と家族を養えるだけの収入はあるものに限られると思う。天職に出会うためには、まずチャレンジすべき「夢」と才能を伸ばす「努力」と「向上心」、あとわずかばかりの「運」が必要だろう。(20代男性)
- 若い時に、しっかりとした意思で自分が望む職業につけたら、「天職」に出会える確率が一番高いのではないかと。生活の為にただ仕事をこなしている人が多いのが現実ではあるが、「天職」を見つけたいと望む心を持っている人、向上心を持っている人なら、現状の仕事の中にも、喜び、生きがい、やりがい等の前向きな姿勢で毎日を過ごせるのではないかと。ひょっとすると、定年退職するとき、あるいは死を前にした時に、「オレの人生は間違いではなかった。いい人生、いい仕事をしてきた。」と思えたら、その時「天職」に就いていた事になるのではないかと。 (50代男性)
- 自分なりに生きがいを持ってできる仕事に出会えたら、それは「天職」であると言えます。でも、それは人それぞれで、就業中にこの仕事は「天職」だと思う人もいれば、定年を迎えた時に「天職」だったと思う人もいるかもしれません。また、「天職」だと思っていたにも関わらず、別の仕事に出会い、それを「天職」だと思うかもしれません。常に向上心を持って物事に臨んでいけばおのずと道は開けてくるのではないのでしょうか。(40代女性)
- 自分にとって、今の仕事为天職かどうかは分かりません。けれど、仕事をしていて辛いことも多々ありますが、達成感もあり充実もしているので良い仕事に巡り会ったと思っています。「天職」に出会うためには、どのような仕事でも根気よく続けることだと思います。短い期間で転職を繰り返しては、天職に巡り会ったとしても気づかぬまま、最後まで探すことになると思います。(20代男性)
- 出会うチャンスは誰にでもあり、いつ出会うかも分からないと思う。なので、大小にかかわらず、目の前にある課題や問題について、真剣に向き合っていき続ける事だと思う。(20代男性)
- 自分を客観的に評価できる能力を養うこと。好きなだけでは「天職」とは言えないと思う。自分の能力や才能に合った職種であることも大事だが、それは客観的に自分を評価しないと見えてこない。(30代女性)
- 何がその人にとっての天職かは、やってみないとわからないと思う。自分では天職だと思っても、他人から見たら違う評価かもしれない。自分では好きではないと思っていることでも、それが天職だと人から言われる事があるかもしれない。実際に携わっている時には気が付かず、後々天職だったと思えるものかもしれない。天職かどうかは、どのような成果を残したか、結果を判断されるもののように思う。(40代女性)
- やはり待っているだけでは天職には出会えないと思う。いろんなことに挑戦し、また自分の得意なこと、興味のあることをもつとつと突き詰めていき、そして仕事をしてあげているという姿勢ではなく、周りの環境、周りの人々から学ばせてもらって経験を積みさせてもらっているのだという考え、姿勢で臨み本気で仕事と自分に向き合っこそ、天職に巡り会えるのだと思う。何事でもそうだと思うが、努力なくして大きな成果は得られない。とても小さなことでも、たくさんの努力を重ねていると、必ずその成果は何かしらの形となってあらわれると思う。(20代女性)
- 自分の夢と理想を追い続けければ必ず出会える、というか引き寄せることができる。それは金銭面での満足感とかステータスとは別のもので、自分の魂の喜びとなるものだと思います。(50代女性)

- 今の仕事は、実際に就く前はずっと夢に描いていた仕事だったが、実際に就いてみると想像とは全く違い、自分には向いていないのではないかと本気で考えるようになった。何事もやってみないとその良いところも悪いところも分からないけれど、少なくとも事前にいろいろ調べてみるのが大切だと思う。常に目標を持ってその目標達成のために自分の意思で努力できる仕事は天職だと思うし、その天職に出会うためには自分の信念を持って行動することが必要だと思う。(20代女性)
- 『天職』はその人の価値観であると思う。その人自身が「これは天職だ」と感じたならそれが天職。私は子どもが好きで、ずっと保育関連の仕事がしたくてその道を目指し、今(保育士)に至る。自分には保育士としてまだまだ足りない部分、向いてないのかもと感じるところも多い。だから胸を張って、『これは私の天職だ』と言えるようになりたいと思っている。(20代女性)
- 自分の好きなことは何か？自分が才能を発揮できることは何か？をきちんと把握し、それを周囲にアピールすれば天職に出会えると思う。自分の好きなサッカー選手が、子どもにどうすれば夢を実現できるか聞かれて、「好きなだけ、努力するだけではダメ。夢があれば、それを周りに言わなきゃ！」と答えていて、なるほどなあと思った。口に出さないと、誰も気づいてくれないからチャンスも与えられない。(30代女性)
- 天職とは、その仕事が自分の適性に合っている仕事であることを自他ともに認めているものではないかと思う。自分の適性に合っているので自己研鑽等で努力することも苦にならず、仕事に対するアイデアも豊富に湧いてくるため、自然と周囲の評価が高くなっていくだろう。このため、天職に出会うためには、自分がどのような分野に興味があるのかを見極めることが大切だと私は考えている。(30代女性)
- 若い時からいろいろな事に興味をもってその中から好きな事を見つける事ができるというのが、必ずしも自分の好きな事を仕事にできる人は少ないと思います。でも、やってみて初めて分かる事もあるし、やっているうちに、その仕事にやりがいを感じたり誇りをもてたりすることも多いと思います。仕事をしていく中で、生活のためだけではなく、自己実現やまわりの人々のために役立っているという気持ちが持てたら、それは、その人の天職といってもいいのではと思います。(50代女性)
- 他人からはなかなか判断が難しいことだと思います。すべては自分の心の中のことであり、人の心は移ろいゆくものだと思います。そのとき置かれている環境(人間関係や経済的事情)によって楽しく充実していたはずの仕事がつまらないものになってしまうこともあるでしょう。やりがいや充実感だけで判断することもできないでしょうから「天職」という言葉自体の定義も難しいものに思えます。(50代男性)
- そもそも天職は存在しない。結局のところ、「ひょっとしたら、もっとオレに適した仕事があるんじゃないか…」という青い鳥症候群があるかないか。「これが天職だ」と自分で思い込めるかどうか最大の壁だと思う。(30代男性)
- 「天職」なんていうから神からでも「与えられるもの」というイメージがあるが、実際には自分に合った仕事、自分がやりたい仕事は自分で見つけるもの。また「天職」なんて大それたものでなくとも、必ずやりがいは見出せるはず。幸せの青い鳥のように「天職」に飢えていては「天職」に気づけない。(40代男性)